

福祉教育の さらなる広がりを願って 福祉教育セミナーを開催!



先生との関係づくりを目指した取り組み

福祉教育セミナーには、区内の小学校・中学校・高校教員や福祉学習サポーター、福祉教育に関わるボランティア、高校生など50人が参加しました。



福祉教育推進
プロジェクトチーム
世話人 三好宏和さん

福祉教育推進プロジェクトチーム世話人の三好宏和さんは「子どもたちの福祉意識を育むには、まず福祉教育を教える側(教員)へのアプローチが重要です。そこで区内学校から実践事例報告をし、それを自校に持ち帰り、福祉教育の推進に役立てていただくことが目的です」と、セミナーの主旨を説明します。

実践事例報告では、白金小学校から磯貝彰宏先生、桜山中学校から佐藤和志先生、南山中学校(男子部)から和田峰一先生、そして生徒側から桜花学園高等学校インターアクトクラブが登壇し、それぞれの取り組みを報告。最後に、コメンテーターとしてお招きした日本福祉大学准教授の野尻紀恵先生から、事例報告のまとめをしていただきました。

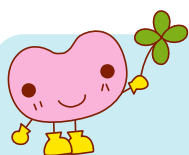
具体的な事例を知ることができる今回のセミナーは「福祉教育で何をすればいいのかと悩む先生にとって、大変な参考になったと思います」と三好さん。

今後は参加者同士でのディスカッションなど、横のつながりを重視したセミナーも開催したいと、三好さんは言います。福祉教育の事例集も、社協のホームページに入れる予定で「大いに活用してほしいですね」と、今後の意気込みを語ります。



1 多数の人が参加し活気に満ちたセミナーとなりました

2 福祉教育推進プロジェクトチームのメンバーの皆さん



相談窓口

小さな悩みごとから大きな困りごとまで どんなことでもお聞きします

昭和区には、現在3学区に相談窓口があります。子育てのつづやきから介護保険の関係まで、まちの知恵袋的存在の相談員が解決の糸口を探します。

小学生に書道の手ほどきしてほしい

→地元ネットワークを活かして書道の先生を探しました!

解決

庭の草取りが一人では大変

→地元ボランティアが行いました!

解決

耐震の家具の固定をしたい

→防災関係のボランティアが実施しました!

解決

相談窓口

◆白金学区相談窓口

場所:白金コミュニティセンター
相談日:毎週火曜日 午前9時~正午
毎週金曜日 午後1時~4時

◆滝川学区相談窓口

場所:滝川コミュニティセンター
相談日:毎週水曜日 午後1時~4時
毎週木曜日 午前9時~正午

◆松栄学区相談窓口

専用電話で毎週水・金曜日 午後1時~4時
(詳細については、昭和区社会福祉協議会までお問い合わせください。)

※ボランティアさんも募集中です。体力に自信のある方、人と接することが好きな方、時間に余裕がある方など・・・ちょっとしたボランティアを始めませんか。昭和区社会福祉協議会までご連絡ください。

2月21日(火)、「平成23年度 福祉教育セミナー」(企画/福祉教育推進プロジェクトチーム)が、昭和三区社会福祉協議会で開催されました。福祉教育推進プロジェクトチームでは「昭和三区で育つ子どもは、共に生きることを学びあいながら成長してほしい」と、福祉教育に取り組んでいます。セミナーでは区内学校における福祉教育の実践事例の報告など、有意義な情報交換の場となりました。



<実践事例報告>

(1) 白金小学校教諭 磯貝彰宏 先生

教務主任として総合的な学習の時間で行っている福祉体験活動に携わる。

「白金小学校では3年生で手話体験、4年生でガイドヘルプ体験、5年生で車いす体験、6年生で高齢者疑似体験を行っています。すべての体験に講師との交流や質問の時間を取り入れています」



白金小学校教諭
磯貝彰宏 先生

(2) 桜山中学校教諭 佐藤和志 先生

1年生を担当。総合的な学習の時間の担当を務める。

「今年度は、全11時間の構成で福祉教育プログラムを展開しました。障がいのある講師との2回の交流では、クラスごと(6クラス)に実施。講師と“一緒に活動する”ことで講師と自分との同じ部分に共感することができました」



桜山中学校教諭
佐藤和志 先生

(3) 南山中学校(男子部)教諭 和田峰一 先生

3年生を担当。市内福祉施設でのボランティア体験を実施。

「ボランティア体験は、学校の建学の精神とリンクさせ、事前準備・事前学習から社協と連携して進めています。また、将棋部の生徒に将棋ボランティアを依頼するなど、新たな展開も広がっています」



南山中学校(男子部)教諭
和田峰一 先生

(4) 桜花学園高等学校インターアクトクラブ

現在、部員は約50人。地域に根ざしたボランティア活動を活発に行っている。

「私たちの活動内容は、福祉施設などでのお手伝いをはじめ、アトラクション(ミュージックベル、手遊び、ダンス)の披露などさまざまです。週末はほぼどこかで活動している状況です。活動によって成長できることがやりがいにつながっています」



桜花学園高等学校
インターアクトクラブ

<事例報告のまとめ>



コメンテーター：野尻紀恵 氏

(日本福祉大学 社会福祉学部 准教授)

「2011年3月以降、東日本大震災の被災地支援、三重県・和歌山県の台風被災地支援などで、学生を巻き込みながら積極的な活動を展開しています。学生と接している実感するのは、小・中学校時代の福祉教育が、いかに成長してからの福祉に対する意識に影響を与えるかということです。今回の事例報告には、今後の昭和三区の可能性を感じました」

野尻紀恵 氏
日本福祉大学
社会福祉学部 准教授